

「(農)ファームよしだ」を核にタマネギの拠点産地づくり

1. 農事組合法人ファームよしだ(安来市)

【設立】H31年2月設立

農業の担い手が減る中、地域の農地荒廃への危機感から「吉田地区農業競争力強化農地整備事業(H29～R5年度予定)」を契機に法人を設立。

【組合員】95人

【経営面積】約40ha(R6年度作付可能面積)

【経営品目】水稲39.6ha(R7年計画: 40.8ha)
タマネギ7.2ha(R6年作付)

2. 取組の経過及び概要

基盤整備後の早期経営安定のためには、高収益作物の導入が必要であることから、水田園芸に着目。

R2年からタマネギ・キャベツを試作する中で、**作業の機械化が可能なタマネギを園芸品目の柱に決定。**水田園芸の拠点産地づくりを目指して、その核となる役割を果たすため、R3～5年度の「産地生産基盤パワーアップ事業」・「水田園芸拠点産地づくり事業」を活用して、各種機械を導入することで、**大規模機械化作業一貫体系を確立。**

導入年	導入機械	
R3	オニオンハーベスタ	
	ディガー	
	リアリフト	
	ハイクリブーム	
	根切機	
	肥料散布機	
	フォークリフト	
R4	乗用移植機	
	マニユアスプレッダー	
R5	トラクター	
	グランドロータリー	

オニオンハーベスタ

リアリフト

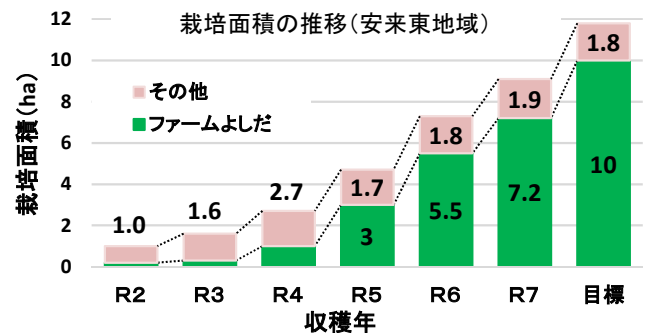
乗用移植機

3. 取組の成果

(1) タマネギの拠点産地づくりが進展

R2年に20aから始まったタマネギの面積は、R7年には7.2haに拡大し、**将来的には10haが目標。**

また、(農)ファームよしだの栽培が契機となり、周辺組織にも波及効果があり、タマネギ栽培が拡大中。



(2) 拠点産地づくりに向けた取組

拠点産地づくりに向けて、共同育苗体制の構築のため**育苗技術の習得と良質苗の安定供給を目的とした育苗委託管理**を実証。

生産者が連携し情報交換等による栽培技術向上、生産を巡る各種課題の解決を図るため生産者の組織化を検討中。



播種作業



育苗ベンチ作成

代表者から一言

タマネギは作業の機械化が可能で、支援制度がある今のうちがチャンスだと思いました。10haの栽培に向けて、組合員一丸となってチャレンジしていきたいです。

新田徹 代表理事組合長(67才)

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 更なる反収向上及び生産安定のため、粗雑有機物の投入等による強粘質土壌の物理性改善
- (2) 近隣生産組織との連携による農作業受委託の仕組みづくり
- (3) 適切な作物輪作体系の確立によるタマネギ定着促進